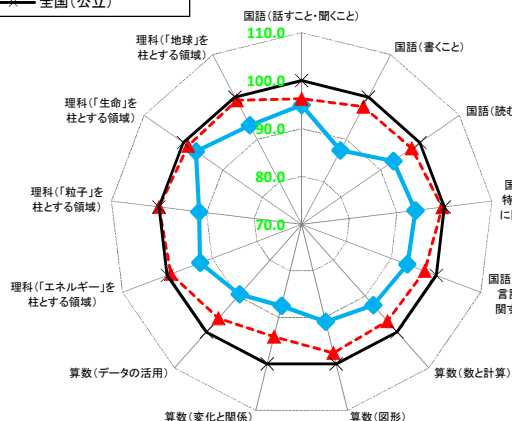
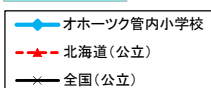


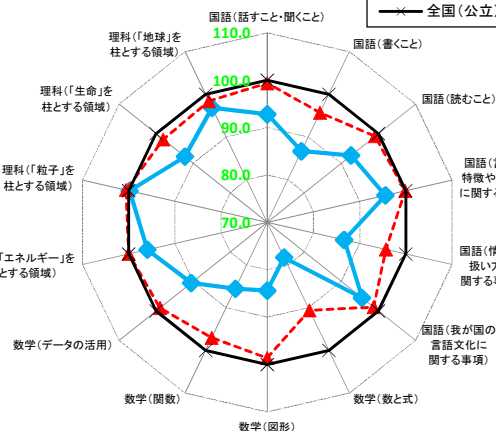
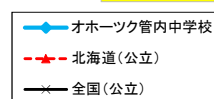
■オホーツク管内の状況及び学力向上策（小学校数:78校、児童数:1615人）（中学校数:49校、生徒数:1743人）

小学校【教科全体の状況】



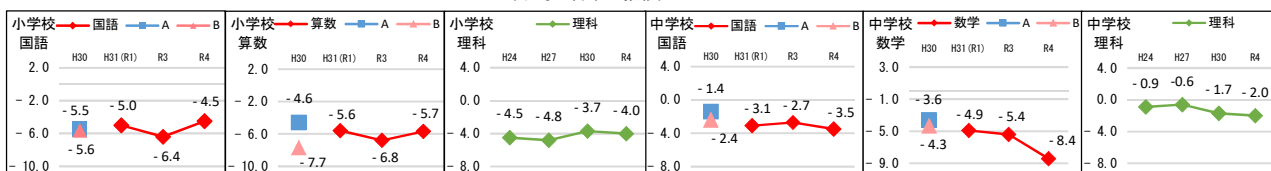
平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
オホーツク管内	61[61.1]	58[57.5]	59[59.3]	66[65.5]	43[43.0]	47[47.3]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

中学校



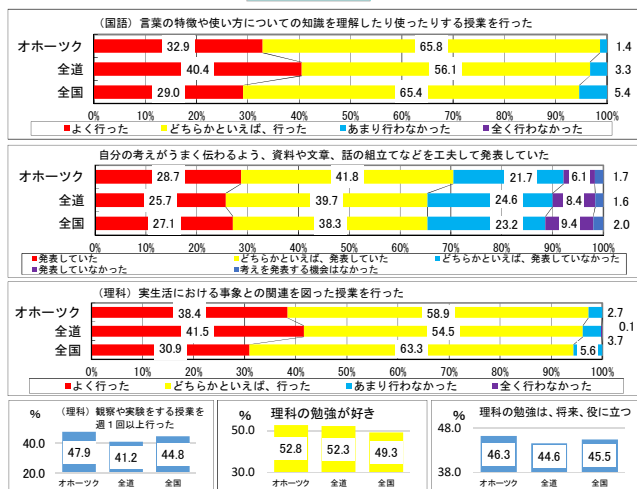
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

〔平均正答率の推移〕「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」の経年変化

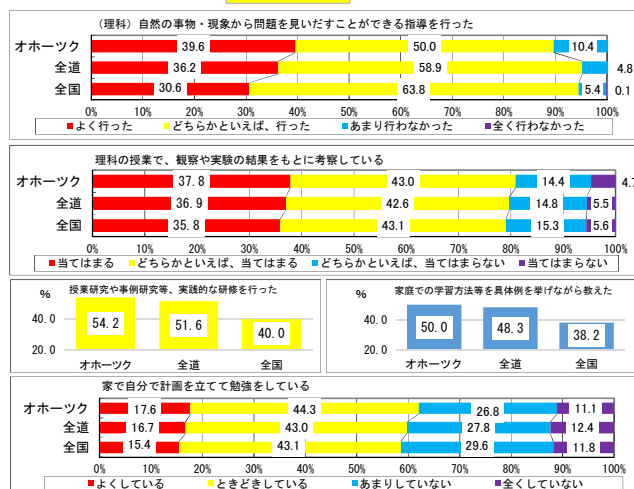


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりする授業を行ったことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章を工夫して発表したと回答する児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業や、児童が観察や実験をする授業を週1回以上行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の勉強が好き、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、理科の指導として、自然の事象・現象から課題を見いだす指導を行ったことにより、生徒が探究的な視点をもって授業に臨み、理科の観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、授業研究や事例研究等の実践的な研修を行ったり、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたりしたことにより、授業との関連を図った家庭学習が促進され、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

オホーツク管内の学力向上策 については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

オホーツク管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1) 検証改善サイクルの確立

- 各種調査やデータ等に基づく、一連のPDCAサイクルの確立に学校間の差が見られることから、ロードマップを活用した取組の共有及び明確化等、全教職員による検証改善サイクルの確立を図る必要がある。
- 年3回の学校教育指導において、管内版ロードマップを活用した検証改善サイクルの充実に向け指導助言を行う。
- 年2回の組織力強化会議を通じて、教育課程の適切な実施等、管理職等の学校マネジメント能力の向上を図る。
- 「ほっかいどうチャレンジテスト」管内版分析ツールを活用することにより、日常の授業改善をマネジメントする。

(2) 学校全体で取り組む授業改善

- 管内において、学習内容及び学習過程が不明瞭な授業が散見されることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、組織的な授業改善に取り組む必要がある。
- 管内版ロードマップに基づいた実施状況を把握するとともに、全ての児童生徒の学びの保障に係る指導助言を行うことで、組織的・計画的な授業改善を図る。
- 学校等の要望に応じて実施する教師力向上セミナーや、「オホーツク夏の教育セミナー」を実施し、教員の指導力向上を図る。

(3) 地域・家庭と一体となった取組

- 管内において、家庭学習習慣や生活習慣に課題が見られることから、家庭、地域と一体となった取組を進める必要がある。
- 学校教育指導において、社会教育指導班と連携して家庭や地域との連携状況を把握するとともに、各種調査結果等を踏まえた実効性のある乗り入れ授業や9年間の系統性のある教育課程編成等に係る指導助言を行う。

2. 具体的な取組

月	(1) 検証改善サイクルの確立	(2) 学校全体で取り組む授業改善	(3) 地域・家庭と一体となった取組
10	◇チャレンジテストの分析及び取組の検証	◇網走地方教育研修センター講座（音楽科・道徳科・特別活動・食に関する指導）	
11	◇学校力向上総合実践事業実践指定校公開研究会（北見市）	◇網走地方教育研修センター講座（社会科・性に関する指導・公共図書館・保健室経営）	
12	◇学校力向上総合実践事業実践指定校公開研究会（網走市）	◇指導力向上セミナー（算数・数学）	
◇「オホーツク管内教育推進の重点」の年度末評価による、取組の成果の検証（管理職、教務主任等）			
1	◇「オホーツク 冬の教育セミナー」（教諭等） ◇第2回組織力強化会議（校長、学力向上担当者） ◇組織力独自アンケートによる検証		
2	◇チャレンジテストの分析及び取組の検証		◇好事例の発信
	◇学校教育指導（3次協議）における管内版ロードマップを活用した授業改善の達成状況の把握及び次年度の方向性を確認（管理職、教務主任等）		
3	「オールオホーツクで学力向上を！」の取組の検証・見直し（教育長部会・校長会）		

3. 取組の評価

(1) 検証改善サイクルの確立 ①「全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく学校全体で教育活動を改善するために活用した」 ・現 状 小…37.7% 中…39.6% ※R3学校質問紙(19) PDCAの確立の回答状況 ・目 標 小…70.0% 中…70.0% ・達成値 小…47.9% 中…62.5% ②「管内版ロードマップを活用した授業改善を進めている」 ・現 状 小…92.5% 中…95.0% ・目 標 小…100% 中…100% ・達成値 ※3月末に評価	(2) 学校全体で取り組む授業改善 ①「授業では、課題の解決に向けて、自分であらゆる考え、自分から取り組んでいる」 ・現 状 小…31.4% 中…29.6% ・目 標 小…70.0% 中…70.0% ・達成値 小…31.9% 中…26.8% ②「各学校が教育課程に基づき、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っている」 ・現 状 小…76.6% 中…96.1% ・目 標 小…90.0% 中…100% ・達成値 ※3月末に評価	(3) 地域・家庭と一体となった取組 ①「学校の授業時間以外に、平日、1日当たり勉強する時間が、1時間以上である」 ・現 状 小…63.3% 中…94.1% ・目 標 小…70.0% 中…100.0% ・達成値 小…41.3% 中…54.5% ②「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている」 ・現 状 小…40.3% 中…33.3% ・目 標 小…60.0% 中…60.0% ・達成値 小…34.2% 中…29.2%
---	--	---

4. 改善点

(1) 検証改善サイクルの確立 □学校教育指導において、管内版ロードマップを活用した各学校における課題の検証・分析に対して指導助言を行う。 □組織力強化会議において、先進校の取組を共有することにより、組織的な授業改善を推進する検証改善サイクルの確立を図る。	(2) 学校全体で取り組む授業改善 □学校教育指導において、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、児童生徒が論理的に思考し記述する場面を位置付けた授業改善について指導助言を行う。 □指導力向上セミナー等の授業づくりに関わる研修会を実施する。	(3) 地域・家庭と一体となった取組 □学校教育指導において、1人1台端末を活用した家庭学習の推進状況を把握するとともに授業と関連した家庭学習の在り方について指導助言を行う。 □家庭学習の手引や1人1台端末の活用等の家庭と連携した取組について、管内の好事例を収集して周知する。
---	---	---